

# 維持管理の向上へ技術革新とプロ意識

## 福井県コンクリート診断士会が活動報告会を開く



約120人参加

福井県コンクリート診断士会(山川博樹会長)が主催する最新の活動報告会は29日開かれ、維持管理の向上へ一層技術革新を図る意義や、プロ意識の高い人材の育成も併せて実

## 大学の役割は「中立的で客観的な評価」

### 県建設技術公社と3県士会の共催

現していく重要性を再確認した。福井市宝永の県国際交流会館で。

公益財団法人福井県

山川会長が冒頭挨拶

建設技術公社と、北陸三県コンクリート診断士会が共催した。

「北陸三県コンクリート診断士会との協働による早期劣化コンクリート構造物の診断と対

し写真、情報共有の重要性を強調。活動報告は、まず石川裕夏氏(福井県の診断士会初代会長)が話した。J

策のための人材育成事業」をテーマに、課題と展望を示した。

「自治体職員を対象とした技術展示会の成果と、最新技術実装へ向けてをテーマとした。最後は、金沢工業大学工学部環境土木工学科教授の宮里心一氏が「北陸SIPでの5年間にわたる地域実装活動の概要と今後への期待」について話した。

「自治体職員を対象とした技術展示会の成果と、最新技術実装へ向けてをテーマとした。最後は、金沢工業大学工学部環境土木工学科教授の宮里心一氏が「北陸SIPでの5年間にわたる地域実装活動の概要と今後への期待」について話した。

「地域の維持管理を支える技術は日進月歩。いっそう効率的で効果的な技術を。汎用性が高く、簡便な技術など、新技術の導入支援が大切。一方で、プロとしての信念や覚悟、責任を持った人材の育成が求められる」



石川氏

「SIPは科学技術イノベーションの実現へ、旧来の枠を超えた新プログラム。今後はSIPに限らず、管理者による適切な技術選定が大切。北陸地方で使える点検や補修技術、補修オリンピックの成果などを展示したい」



花岡氏

「自治体職員が道路橋の維持管理を学習すると点検、診断、補修に関する有益な情報を取得し安全性が向上。費用も削減できる。学だけがやる気を持っていても実践できない。官も、いまやらなければ、との気持ちが必要」



宮里氏

「(氏は元金沢大学教授で、北陸SIPの裏話を紹介)当初は東大と金大で研究を進め太刀打ちできなかった。地味な研究ではあるが、やはり継続は力。今では活用事例は我々が残した方が、はるかに多くなっている」



鳥居氏

の役割は? 「技術に対する中立的で客観的な評価を」(石川氏)と応えるなど連携と連携の重要性を指摘。最後は、主催の江波清隆副会長が閉会挨拶した。